

第70回卒業式式辞

2019.3.1

例年より早い春の到来を実感する、この佳き日に、大勢の来賓の方々に、ご出席賜り、第70回卒業式を挙げていきますことに、まず心から感謝申し上げます。私立学校は生徒・保護者・教職員・地域の方など、『みんなで創る学校』です。来賓の方々は、その「みんな」の代表の方々です。こうした大勢の方々に支えられている皆さん、そして本校は幸せです。本校を代表して、お忙しい中、おいでいただきました来賓の皆さまに心からお礼を申し上げます。有難うございます。

325名の卒業生の皆さん。おめでとう。3年前、入学してきた皆さんに、私は「選択が大事なのではない。選択を正解にすることが大事」なのだ話し、「近江兄弟社高校を選択したことを正解にすること」という課題を課しました。皆さんはその課題をやりきれたでしょうか。先日の卒業記念礼拝でメッセージしてくれた単位制の生徒は、「良い選択をしたと中学生の自分を褒めてやりたい」と話してくれましたが、私からは、そんな高校生活を送った今のあなたを褒めてあげたいと思います。

まだ正解にする途中という人もいるかもしれません。それはそれで結構。本校の価値観、ステージがすべてではありません。まだ花は咲かせていないという人は、しっかり根を張った3年間だったと思って、とにかく前へ進みましょう。

ここで卒業生の皆さんに、新しい課題を出します。近江兄弟社高校最後の「課題」です。是非とも完璧にやり遂げて欲しい、本校卒業生の必修課題です。どんな課題か、それは「幸せになること」です。私に与えられた残された時間をその課題に取り組む皆さんへの、私の最後の授業とさせていただきます。私にとりまして、今日の卒業式が校長としての最後の卒業式となります。万感の思いを込めて、最後のメッセージをさせていただきます。

卒業は旅立ちです。これからの皆さんの人生には色々なことが待ち構えているでしょう。私は大学を卒業してすぐ、この学園に就職して現在に至る、平凡な人生です。それでも高校を卒業して44年。色々なことがありました。まず受験に失敗して浪人、大学入学後すぐ大失恋、その後も留年しそうになったり、就職もなかなか決まりませんでした。幸いこの学園に拾っていただきましたが、仕事での失敗は数えきれず、職場で浮いてしまったこともあります。悩んで眠れぬ夜を過ごしたことや、行き詰まって、もうやめようと思ったことも一度や二度ではありません。



しかし、この歳まで、この仕事を続けて来て良かったと思うのは、そんなあれこれを帳消しにして、余りあるような、嬉しかったこと、感動したことも多くあるからです。学園に就職して初めて教壇に立った時の感動、初めて担任を持った学年の卒業式、休みの日に生徒と一緒に遊びに行ったり、食事をしたり…。最近でも海外研修旅行や虹隣祭、クラブ活動の応援など生徒諸君と一緒にの時間が一番楽しい。保護者の皆様とも PTA



活動など本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。今、実感として、こんな幸せな校長は他にはいないのではないかと考えています。再度、卒業記念礼拝の生徒メッセージの引用ですが、バレーボール部の生徒が「あこがれのオレンジコートから見た応援席の光景が忘れられない」。人生には色々なことがあります、それを乗り越えた者には特別の景色が用意されているのです。

卒業記念礼拝のメッセージの引用を続けます。サッカー部のキャプテンからは「真剣に真っ正面からみんなと向き合うことの大切さ」、虹隣祭やボランティア活動の経験を話してくれた生徒からは「他者との協働や人の役に立つ喜び」、タイへの留学経験者からは「かつてないほどの学習意欲に繋がった」等が話され、本校生徒の豊かな学びを実感させてくれました。またメッセージをしてくれた5人に共通して、色々な方々への感謝の言葉が語られたことが印象的でした。何か・誰かへの感謝の気持ちが何か・誰かに役立ちたいというエネルギーになることを改めて確認しました。

皆さんが今、感謝すべき一番はどなたでしょう。それは間違いなく保護者の方々です。私事が続き恐縮ですが、今でも思い出して胸が痛むのは、私は浪人の末、自宅から通学可能な大学に進学したにも関わらず、下宿させろと要求した時のこと。色々心配し、反対する両親に、これ以上甘やかされてはダメとの思いで、「この家にいたのでは僕はダメになる」なんてひどいことを言いました。その時の両親、とりわけ母の悲しそうな顔は忘れられません。それでも私の両親は、下宿を認めてくれました。私も3人の子どもの父親となり、今にして、あの時の両親の寂しさ、悲しさがわかるのです。大学に行かせてくれ、下宿をさせてくれた両親に、心から感謝しています。今、母は手術をして入院しています。感謝の気持ちをエネルギーに変えて親孝行をしなければと思います。卒業生の皆さん。照れながらもいい、ぜひ今日、保護者の方に感謝の気持ちを伝えてください。

繰り返しになりますが、何か・誰かへの感謝の気持ちが何か・誰かに役立ちたいというエネルギーになる。そして何か誰かの役に立つことが「幸せになる」条件だと思います。自分だけ良ければいいということでは幸せになりません。「カセギとツトメ」の両方の責任をきちんと果たすことが大事なのです。自分たちの生活に必要なものをちゃんとカセギことは大切なことです。その上で仲間や社会のためのツトメもきちんと果たさなければなりません。永六輔さんの言葉です。「職業に貴賤はないけど、生き方に貴賤はある」。本校卒業生はぜひ貴い生

き方をしてください。貴い生き方とは、カセギだけでなく仲間や社会のためのツトメをきちんと果たす生き方です。それが学園訓「地の塩・世の光」にも通じる生き方です。

卒業生の皆さん。「幸せになること」という最後の「課題」に積極的にチャレンジしてください。自信なんかなくたって何とかあります。まずは一歩踏み出すことです。この課題の提出期限は「生きている間」です。逆に言えば、課題を仕上げるまで元気に頑張ってください。いのち・体を大切にしてください。そして必ず「課題」をやり遂げて、本校に提出しに来てください。私たち教職員は楽しみに待っています。途中で質問や相談に来られることも歓迎します。

最後に、3月末で校長は池田副校長に交代します。私のようないたらない人間が12年間も校長を務めさせていただいたことに心から感謝し、お支えいただいたすべての皆様、とりわけ生徒諸君に御礼を言います。4月以降は理事長となり、理事長室にいます。理事長への質問・相談にはコーヒーサービスも付けます。是非おいで下さい。それでは最後にもう一度、課題を確認します。「幸せになること」。以上式辞とします。

